

# 道徳授業地区公開講座 3年2組資料

※当初予定していた教材と変更になりました。申し訳ございません。

## 1. 3年生の実態

低学年から中学年に上がることで、道徳的規範の必要性を理解できるようになってきます。つまり、「先生に言われたからやる。」から、「気持ちがいいからやる。」「みんなの気持ちがよくなるからやる。」と自発的に変化してきます。

また、友達関係も広がり、集団で過ごすことも増えて、自我が芽生えてきたりする時期でもあります。そのため、すべきことがわかっているのに、人任せにしまったり、自分のやりたいことを優先しようとする姿も出てきます。

道徳教育を通して、主体的に判断し、自他ともによりよい生活を送ろうとする実践意欲を育てていきたいと思えます。

## 2. 授業について

(1) 主題名「思いやりの心【親切・思いやり】」

(2) 教材名「落ちていたきっぷ」

年末の日曜日、混雑する駅で、明子は大きな荷物を抱えたおばあさんを見かけます。大丈夫かなと思っているうちにおばあさんは立ち去りますが、そこに一枚の切符があるのを明子が発見します。おばあさんのことを想像していると、じっとしてられなくなったという明子の心には、相手のことを自分に置き換えて想像する思いやりの心があります。児童には明子への共感を通して、思いやりの心を自分の中にも見つけてもらいたいと思えます。

(3) ねらい

困っているおばあさんを想像してじっとしてられず切符を届けた明子に思いを共感的に理解することを通して、相手のことを思いやり、すすんで親切にしようとする道徳的実践意欲を培う。

(4) 期待する児童の姿

- ・明子の親切な行動の根底にある心について、考え交流する。
- ・今後の生活の中での思いやり・親切について、自分の言動について振り返る。

## 3. 家庭でも考えよう

この時期の子どもたちは、「褒められたい。」「善いことをしたい。」という思いを強くもっています。ともすると、相手の気持ちよりも褒められたいという自らの思いを優先してしまうこともあります。そこで、「おせっかい」とは異なる、相手の身になって考えた行為である「親切」について考えさせていきたいと思えます。道徳の授業1時間で成果を図ることはできません。学校生活においても、人の役に立ちたいと強く思い係活動や当番の仕事に取り組む子どもたちがたくさんいます。そんな行為一つ一つを大切に評価しつつ、行為自体を褒めるだけでなく、してもらった人の思いにも触れて感謝を伝えていきたいと思えます。ご家庭でも、互いの行為に対する気持ちについて、振り返る機会の一つとしていただけたら幸いです。